

過去の新興国国債(通貨)の騰落率から考える

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

為替市場では、昨年の安倍政権の発足以降、主要通貨に対して円安傾向が続いています。

足元では、米国の量的緩和の縮小観測が広がっていることで、新興国通貨を中心に不安定な動きとなっていますが、新興国のファンダメンタルズが特に悪くなっている状況にないことに加え、相対的に高い金利水準にあること、また、成長に伴う資金需要から債券市場の拡大が見込まれることなどを考えると、新興国の国債および通貨の中長期的な投資魅力は引き続き高いものと考えられます。

ただし、新興国は、安定成長に入った国、発展途上の国など、国によって成長ステージに違いがあることや、資源を有する国、労働人口の多い国など成長の原動力にも違いがあるほか、国債や通貨などの動きも異なります。また、新興国の市場規模は先進国よりも相対的に小さいため、国債や通貨の値動きがより大きくなる傾向があります。こうしたことから、新興国への投資においては、特定の国に集中投資するのを避け、複数の国に投資をする必要があると考えられます。

なお、過去の主要新興国の現地通貨建て国債の騰落率を見ると、上昇率の高い国は一定ではなく、また、それぞれの騰落率には法則性もみられません。投資家心理が悪化するような局面では、新興国の市場全体が同じ方向に動くこともあるものの、中長期において運用成果を向上させるためには、過去の経験則からも、投資国の分散が肝要といえます。

主要新興国の現地通貨建て国債の年間騰落率(円ベース)

期間:2005年~2013年* *2013年は6月末まで

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
1位	トルコ 43.4%	インドネシア 47.4%	トルコ 40.3%	トルコ ▲27.5%	ブラジル 65.3%	インドネシア 12.0%	インドネシア 15.8%	トルコ 42.9%	メキシコ 14.8%
2位	メキシコ 39.1%	ブラジル 40.6%	ブラジル 22.0%	インドネシア ▲28.4%	インドネシア 45.7%	南アフリカ 11.1%	ブラジル ▲0.7%	メキシコ 36.5%	トルコ 3.2%
3位	南アフリカ 13.3%	メキシコ 11.5%	南アフリカ 0.4%	南アフリカ ▲29.4%	トルコ 34.5%	ブラジル 5.2%	メキシコ ▲8.3%	ブラジル 27.3%	インドネシア 1.2%
4位	ブラジル(注) 6.1%	トルコ 3.1%	インドネシア ▲0.3%	メキシコ ▲29.8%	南アフリカ 27.2%	メキシコ 3.3%	南アフリカ ▲15.6%	南アフリカ 23.8%	南アフリカ ▲3.1%
5位	インドネシア 5.5%	南アフリカ ▲4.3%	メキシコ ▲2.8%	ブラジル ▲33.6%	メキシコ 18.6%	トルコ ▲2.9%	トルコ ▲20.2%	インドネシア 19.3%	ブラジル ▲11.1%

(注)2005年のブラジルは2005年10月末から12月末までの騰落率です

■上記、現地通貨建て国債は、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット(円ベース)の各国ベース(JPモルガン社のデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。